

やすけ
安瀬神社の
宝物

「遷宮」や「合祀」という言葉があります。どちらも神社に関わる言葉で、簡単な意味を紹介します。

遷宮：神殿を造営、改修する際に、ご神体を遷すこと。

合祀：神社の祭神をほかの神社にあわせまつること。

伊勢神宮の「式年遷宮」など、言葉だけは聞いたことがあるという方もいるのではないのでしょうか。

今回紹介するのは、旧安瀬神社に保管されていた「棟札」と呼ばれる木札です。安瀬神社は安瀬村（現厚田区安瀬）にあった神社で、1830（天保元）年に創祀された。保食神（うけもちのかみ）という農業や漁業の守護神をまつっており、この保食神は稲荷神と同神と考えられることも多く、稲荷神社とも呼ばれていました。

棟札とは、建築物の創建・修理に際して記録を残し、上棟式などの際に棟や梁に打ち付けられた木札のことを言います。神社などはもちろん、一般の家を建てる際にもささげられることがあります。

安瀬神社の棟札中央には「奉齋鎮守稲荷神社宮殿二字修営遷宮祭典壘」、左部分には「維時明治十二年九月五日」と書いてあります。「稲

荷神社」とは安瀬神社のことを指し、「宮殿二字修営遷宮」とはそのま「宮殿（社殿）を棟修繕、遷宮します」という意味になります。

つまり、この棟札を見ると1879（明治12）年に安瀬神社が社殿の改修と遷宮、それに伴う祭事を行ったことが分かるのです。

安瀬神社は1912（明治45）年に合祀され、公的な神社としての役目を終えました。そのため、神社に関する公的な記録、特に文書などは石狩市内にはほとんど残っていません。この遷宮について知ることができる貴重な存在がこの棟札なのです。

安瀬神社は合祀後も2006（平成18）年まで地元の方々に親しまれ、社殿や奉納物も大切に管理されてきました。もし合祀後すぐに忘れ去られていたのなら、棟札の存在も書かれていた事実も一緒に消えてしまっていたかもしれません。

この棟札は100年前のことを教えてくれる宝物と言えるのではないのでしょうか。（坂本恵衣）

テーマ展 安瀬神社の宝物
 回13日（水）9月4日（日）※火曜除く
 函いしかり砂丘の風資料館
 （弁天町30・4）



棟札 裏

棟札 表

石狩市学芸員
坂本恵衣 Kei Sakamoto

専門は文化人類学。地域信仰について調べるとともに、石狩の人々の生活の中で宗教がどのように考えられていたのか、歴史の変遷などを研究する。

函文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館